

桜 出産後の子育て支援

桜町病院長 小林宗光



桜町病院では出産前の「母親学級」に始まり出産後の「産後ケア」「まなざし」と、産前から産後まで切れ目のない子育て支援体制を整えています。ここでは「産後ケア」と「まなざし」について紹介します。

産後ケア

産後ケアは2020年に始めた小金井市と協力して行う子育て支援事業で生後1歳未満の乳児を持つ授乳や育児に不安のある母親が対象です。お母さんの心身の疲労回復のために産婦人科病棟内に静かな落ち着ける部屋が用意されており、赤ちゃんをお預かりするのでお母さんは自由に休息が取れます。そして産後のお母さんの体調管理(乳房マッサージ、授乳支援、健康状態のチェック)や育児相談など必要とする支援を行います。利用できる方は小金井市・武蔵野市に住民登録のある方、利用料には市の補助があり、小金井市子ども商品券も使えます。

お問い合わせや利用の予約は桜町病院(042-383-4111)まで。



まなざし

生後6か月までの児と母親を対象とした子育て支援の会。2004年に始まり母親の育児不安を解消し、母親同士の交流の場を提供します。参加費は無料。実際には、話しの弾んでいるお母さんたちの中を小児科医と助産師がそれぞれの相談に応じながら回り不安を解消していきます(写真)。月齢が同じ赤ちゃんのお母さん同士は話題に共通点が多いのですぐに友達ができ、その結び付きはその後の子育てに大きな力となります。「病院にかかるほどでもない、医師に聞くほどでもないと思われることでも聞くことができ安心につながった」、「子供が成長しても母の友人関係はその後長く続いている」というお母さんの声を多く聞きます。

「まなざしは」対面での開催のため残念ながらコロナ禍の今は休止中。



桜町病院

さくら

第31号

発行：2022年10月10日
広報委員会

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) <http://www.sakuramachi-hp.or.jp/>

基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

Close Up!

暮らしの中で看取ることに不可能はない

～桜町病院在宅診療部

桜町病院では地域包括ケア病を開設したことをきっかけに在宅診療部を立ち上げ、主にご自宅で療養中のがん患者様のお看取りまでの診療を担当しております。がん治療のために都心や武蔵野赤十字病院などのがん拠点病院に通院していた方が、がん治療の限界を迎え、体力の低下とともに通院が困難になったことをきっかけにご相談を頂くことが多いです。

がん治療医から自宅の近くの病院に移ったかどうか？今後は緩和ケアを中心に、最期は自宅かホスピスカ、という提案をされた患者様やご家族は、まだ元気なのに、もう死が近いのか、などといった不安を抱えて相談外来に來られます。また、どんなに

体調が悪化していてもがん治療を継続したい方や、あるいは逆にがん治療をやめたい気持ちがあるのに治療医とのつながりが無くなるのが不安だという方も多くいらっしゃいます。

そこで、訪問診療の相談外来では、がん治療を終了していない段階でも相談を受け、がん治療をやめるまでの心の葛藤にも理解を示しつつ、訪問診療開始のタイミングを見計らって診療しています。

訪問診療担当医がなるべく急な訪問診療にも対応できるよう、まだ通院ができる方は当院の内科または外科の外来に通院していただき、がんによる苦痛症状が出現して症状コントロールが必要になった、あるいは通院が困難になったタイミングで訪問診療を開始しています。

多くの方から訪問診療のご依頼をいただきますが、当院のバックベッドにホスピス病棟があるという特徴を



在宅診療部長 大井 裕子



活かし、また訪問診療は医師が1名で対応しているため、大変心苦しいのですが訪問診療はがんの方に限らせていただいております。

看取りはそれをそばで見守るご家族にとっても不安が耐えないと思いますが、ご家族の不安にも十分に対応できるよう地域の訪問看護師やケアマネージャーなど在宅チームが連携して対応しています。看取りは最期の瞬間だけではなく時間的な幅のあるものです。遠方にお住まいのご家族も、看取りまでの見通しの中でその方の事情に合わせた関わりができるように、早目の情報提供と経過の報告を医療用SNSを活用して行っています。

このような対応はコロナ禍において入院すると面会制限があり自由に会えない、最期に立ち会えない、という状況においても患者様やご家族が人生の最期の時間をどう過ごしたいかについて考える人生会議にも役立っています。

チーム桜町

地域医療連携室は部長、副部長、室長、入退院支援担当部長、医療ソーシャルワーカー(MSW)、看護師、事務で構成されており、医療福祉相談係、退院支援係、連携係の3つの係にわかれて業務を行っています。

医療福祉相談係では社会福祉士の資格をもつMSWが入院患者さんや外来患者さん、ご家族からの様々な相談に応じ、地域の関係機関と連携して支援をしています。在宅診療部の相談窓口やホスピス相談外来の予約もMSWが行っており、病院と患者さん、地域を結ぶ役割を担っています。地域の医療機関からご紹介いただき、当院での治療が終わった患者さんは紹介元の医療機関へお戻りいただくため(逆紹介)、市内、近隣医師会の先生との連携も大事にしています。

連携係では近隣の高次病院の診療予約をとること、市内医師会の先生からの当院専門外来の紹介予約対応、紹介・逆紹介の統計作成などを基本業務としています。また、毎月「連携だより」を発行しており、近隣の医療機関へ配布しています。

つらい症状を緩和し必要な薬剤を見きわめるための短期間の入院や、最期だからこそ自宅に帰るという選択にも迅速に対応しております。ホスピスでの多数の看取り経験を活かして、在宅でも苦痛なく自然な最期を過ごすことを小金井市内の素晴らしい在宅チームとともに支えていくことができる、そして、人生の最期に誰もが直面する食べられない問題にも地域の歯科医師や管理栄養士、歯科衛生士などと連携して食べたい気持ちを最期まで支えていける、それが当院の在宅診療部です。

暮らしの中で看取することに不可能はありません。認知症で療養中がんと診断された方、ひとり暮らしだけど最期まで自宅で過ごしたいという方、施設に入所中だが訪問してほしいという方、かかりつけ医と一緒にがんの診療をしてほしいという方、どなたもお気軽に相談ください。

地域医療連携室

退院支援係では入院中の患者さんの退院支援を中心にしています。MSWと退院支援看護師、病棟看護師、リハビリ担当者、栄養士などが連携し、退院後の生活に困ることがないようにケアマネージャーや訪問看護師など在宅ケアチームと情報共有・連携し、スムーズにご自宅へ退院し療養できるようにしています。患者さん本人やご家族にも参加いただきカンファレンスを実施することもあります。

地域医療連携室は病院玄関に入ってすぐ左にあります。何かご相談がございましたらお声をかけてください。お電話でのご相談も承っています。

(地域医療連携室長 齋藤 優喜子)



栄養科のおいしい&ヘルシー Recipe

監修：管理栄養士 松尾敦子

No.8

水菜としらすごはん

材 料

2人分(お茶碗2杯分)

ごはん	400g
水菜	30g
しらす	20g
かつお節	3g
しょうゆ	小さじ1と1/2

作り方

- ①水菜は2cmくらいの長さに切ってさっと茹でてしぼり、ほぐしておく。
 - ②温かいごはんに水菜、しらす、かつお節をほぐしながら混ぜてしょうゆをいれてさらに混ぜる。
- しらすの塩分にもよるので、しょうゆは加減しながら入れてたりなければ足して下さい。



One Point

水菜は生でも食べられるのでさっと湯がいてください。シャキシャキ感が残っている方が美味しいです！

ご存知ですか？

桜町病院といえばやはり桜！毎年ソメイヨシノの時期になると近隣の方が桜を観に足を運ぶほど小金井市内でも有名なスポットです。でも実は桜以外でも、敷地内には手入れをされた四季折々の花が咲き、患者さんや職員の目を楽しませてくれています。

桜町病院公式Instagram (@sakuramachi_hp)では、院内の花々の様子もご紹介しています。ぜひご覧になってみてください。



桜町病院に咲く花々



編集後記 暑い夏をやり過ごしほっとする暇もなく、台風による風水害を心配しなければならない季節となりました。災害が起こらないことを祈るばかりです。コロナは第7波を数えこの冬には8波の備えをとまわれています。マスクのない日常が1日も早く来ることを願っています。「さくら」のお届けには少々間が空きましたが、病院の情報はホームページやInstagramを使ってお届けしてきました。ここに「さくら31号」が出来上がりました。ご覧ください。(周)